



# KAPATIRAN TIMES

カパティラン・タイムズ

2023年9月 No.43

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-6-18 日本聖公会東京教区事務所内  
Tel&Fax:03(3432) 6449 E-mail:kapatiran.tko@nssk.org  
編集:山崎常城・永瀬良子

## 「バルバラサン」

理事長 牧野兼三

カパティランが毎年行っている「多文化共生ホームステイ」は、フィリピンのルソン島北部山岳地帯にある小さな村、バルバラサンで行われている。そこは、北部の都市タブクから、ジプニーと呼ばれる乗合バスで揺られること6時間、サルタンリバーの渓谷沿いにひっそりと佇む Google マップにも出てこない場所。細い路地と階段が入り組んだ大小50世帯くらいの集落にはインターネットも、携帯電波も、電気すらもない。水道は調子のよい時に出る程度で、大きな甕に溜めて柄杓で使う。

スペイン統治が終った1900年から日本統治が始まる1941年あたりまで、この地には多くのアメリカ聖公会の若い宣教師が送り込まれた。そして山岳地帯において医療・教育・伝道の三つの働きが相助け合う形で為される場所として宣教活動が行われた。その影響もあって現在も老若男女は皆きれいな発音の英語を話す。

集落の中心には聖パウロ教会と、中高一貫校のメモリアルスクールがあり、山岳地域の男女150人の学生たちが学んでいる。学生たちは、数人ずつ各家庭に下宿していて、掃除、洗濯、炊事を手伝い、下宿代は無料となっている。路地には犬、猫、鳥、豚が溢れており、特に犬は日常的に家の中にも入ってきて、ご飯を食べる人間をジッと見つめ、残飯にありつけるのを待っている。

このような文明とはおおよそかけ離れた場所にはるばる出かけて、学生たちがホームステイをすることの意味は何か？一言で答えるのは難しい。

ただ、この場所に数日暮らしていると、一見何もない不自由な生活が、朝起きて夜寝るまで、夜明けを告げる鶏、空腹を訴える豚、ごはんが炊ける匂い、コーヒーの香り、渓谷から聞こえる水音、子供達の笑い声など実は豊かな恵みに満ちたものであることに気付かされる。

また、自然の中に同化し、食事、排泄、睡眠と規則正しい毎日を過ごしていると、私たちは誰もがみな、人と何一つ変わらない一人の人間なのだということに改めて気付かされる。

そして何よりも、そこには毎年変わることなく、旅人である私たちを無償の愛と心尽くしのもてなしで受け入れてくれる心優しい人々がいる。こんな場所が他にあるだろうか？

今回参加してくれた学生たちにとっても、バルバラサンでの夏は、多くのことを体験し、感じ、考える素晴らしい経験となったということを確認している。

教会の先輩方が120年以上前にこの地において築いた礎と、そこから長い期間継続してきた信頼関係を、カパティランがしっかりと受け継ぎ、これからもこの地の素晴らしさを若者たちに伝えていきたいと考えている。

## 4年ぶりにフィリピンに 行ってきました！



大学生2名を連れて、フィリピンに行ってきました。かけがえのない出会いと、サバイバルな日々を過ごしてきました。4年ぶりにホームステイプログラムを再開できたことを、皆様に感謝いたします。

R.A. 大学4年生  
(フィリピンルーツ)

私はこの4年間、コロナ禍でどこかに出掛ける事があまり出来なかったので今回、フィリピンに行く事にしました。出発する日にちが近くなっていくにつれて本当に行っているのか、アルバイトで1週間も稼げないため、生活に支障がでないかととても不安と少しの後悔がありました。今回のホームステイを通して今までの不安が全て無くなってしまいうほどとても良い経験をする事が出来たと思います。1週間のうちバルバラサンで過ごした3日間は台風で天候が良くありませんでしたが、山での暮らしや電気が通らない生活、暗くなったら就寝し、鶏の鳴き声で起きるということは日本では絶対に出来ないのととても新鮮でした。また、子ども嫌いだったのが現地の子たちと言葉は通じ合えませんでした。色んなことを一緒にしたり遊んだりすることで仲を深めることや子ども嫌いを克服する事が出来ました。母の実家も田舎ですが海の方なので山の方の暮らしも体験できて良かったです。普段は一人暮らしでアルバイトや大学でしか人と話す事がないため、1週間人と共同生活をする事も全くないため、とても楽しい時間を

を過ごす事が出来ました。日本に帰る時にはとても楽しかった分、家で1人で過ごす時間が少し寂しかったです。また、比べる必要はありませんが、今、自分がどんなにいい生活を送れているのか、当たり前だと思っている事や当たり前前にできる事が本当は幸せだということを実感する事が出来ました。

N.K. 大学2年生  
(フィリピンルーツ)

私は15歳までフィリピンで過ごしてきました。そのため、フィリピンについて幅広い知識を持つてるかと思いましたが、しかしながら、フィリピンに1週間過ごした際には、さまざまな異なる事象がたくさんありました。

その一つの例として、言語のことです。初めはタガログ語を話せる方々が少ないことに驚きました。ルソン島にいるため、皆がタガログ語を話せるのかと思いましたが、しかしながら、意外にも英語のほうが理解しやすかったです。これは実に驚きました。

もう一つ挙げるとすれば、電波がないことです。それから、懐かしい思い出もたくさんありました。例えば、川で服を洗うことや、シャワーを使わずに体を清めること、そして食事についても、とても懐かしい経験でした。全般的に非常に楽しい時を過ごしました。まるで新しいフィリピンを冒険しているようでした。フィリピンは小さな国ですが、人々や部族が共存しており、フィリピンに長く住んでいても新しいことやりびっくりすることなどがまだまだたくさんあるとわかりました。



フィリピン聖公会 北ルソン教区ヒラリー主教と

# 長野県

## Nagano

長野県の野尻湖にサマーキャンプに行ってきました。今回はたまたま、全員がフィリピンルーツの高校生。普段はアルバイトや学校で忙しくしている学生たち。2泊3日のんびり過ごしてきました。



滅多に乗らない新幹線に乗り、メンバーたちと長野県まで行ってきました。正直みんな年上だったので楽しめるか不安でした。ですが先輩方とカードゲームをして盛り上がり、優しく接してもらったおかげで、気持ちが軽くなり、楽しく過ごすことができました。食材を集めたり、慣れない料理などもしました。その日は「カレーだったので失敗はしないよ」とアドバイスをもらい安心してつくることができました。次の日には湖で泳いだり、カヌーを漕いだりしました。また国際村について教えてもらいました。そして料理をするときの野菜の皮剥きで長野県で取られた夕顔という野菜に苦戦をしました。その後に出れたスープは、格別に美味しかったです。またその前に行った温泉も気持ち良く景色が綺麗でいい思い出になりました。そして夜、全員と最も盛り上がったカードゲームを、私は忘れません。そしてキャンプ終了の日、やりたいことをやって、帰りの支度をし、話にでてきたアイスを食べ、無事帰ることができました。まだいたかった気持ちもありつつ最後には握手で解散をしました。短かい時間でしたが、一生の思い出になりました。楽しかったです。

S.K.(高校2年)フィリピンルーツ

湖でカヌーを使うのも楽しかったし、湖を見ながらおしゃべりするのも楽しかった。温泉に行くのは本当にリラックスできたし、家に泊まって一緒に料理を作るのも楽しかった。全体的に楽しい思い出がたくさんできました。

H.H. (高校3年) フィリピンルーツ

私はこの夏にカパティランのサマーキャンプに参加し、長野県に行きました。当日の朝、新幹線の改札前に集合した時は、まだ同年代の子達とは少し気まずい雰囲気でしたが、新幹線で UNO をして少しずつ打ち解けていきました。その日の夜は一緒にホラー映画を見たり、カレーを作ったり距離がギュッと縮まりました。2日目には一緒に湖で泳いで、夜にはみんなで一緒に UNO をしたり、アイスを食べたり、1つの大きな机を囲んで過ごしました。3日目も朝に少し泳ぎ、最後に UNO やババ抜きをしたり、ブルーベリーのアイスクリームを食べました。私はこの3日間1番嬉しかったことは、朝昼夜誰かのご飯を食べることが出来たことが何よりも嬉しかったです。小さい頃から1人でご飯を食べてきたため、人と話しながらご飯を作って食べるのが新鮮でした。また、同じルーツの学生が集まったので、同年代の人達と自分の国について中々話したことがなかったので、話せて嬉しかったです。

K.N. (高校3年)フィリピンルーツ





## 新・理事紹介



大貫尚子

日本聖公会東京教区聖アンデレ教会信徒  
保健師・助産師・公認心理師・臨床心理士

はじめまして。看護師免許を取得し、働きながらお金を貯めては、学んできました。主に保健師をベースに、企業内での健康相談、復職支援、異動に伴う心身のサポート業務等を担当し、新型コロナの感染拡大後は、公衆衛生業務(WHOの資料等から、企業に役立つ新型コロナ情報を報告)も担当しています。ボランティアでは電話・メール・チャット相談を担当し、2015年からは主に自殺予防の電話相談を担当しています。

実は1986年の春、フィリピンのネグロス島で1ペソ頂きました。初めての海外に戸惑い、両替も出来ずに現地入り。サリサリストアの前で、「暑い、飲物が欲しい。でもお金がない。」と立っていたら、トゥクトゥクの運転手さんに「今日は稼げたから」とお金を頂きました。通訳の方が苦笑して、飲み物代を貸して下さいました。カラバオ(水牛)の絵が描いてあるコインは、今も私の宝物です。KAPATIRANの活動を通じて、あの優しさに、少しでも恩返しが出来れば幸いです。

Instagramはじめました!



katipiran.tko  
フォローお願いします!

■皆様のお支えに心から感謝申し上げます。

2023年5月 (順不同・敬省略)

《個人献金》

2023年5月

横内光乃	小川弥生	菅谷恵康
川崎葉子	東江衿子	東玲子
FAHこすもす		

《後援会費》

菊池緑	大竹邦子	中村由佳
北村アイリーン	鵜飼良機	久美子

《奨学金》

安藤裕子	菊池あゆみ	八兵衛
高橋宏幸	植松誠	牧野兼三
山崎常城	山田修司	永瀬良子
匿名1名		

《ご支援方法》

■クレジット決済 **NEW!**

(HPまたは以下QRコードからアクセスしてください)

今回のみ寄附

単発の寄附ができます。



毎月寄附

500円～自由な金額で継続寄附ができます。



■郵便振替

名義:カパティラン  
振替番号:00190-3-581517

■インターネット

Giveone で検索  
<http://www.giveone.net/>

※寄附金控除・税額控除あり

- ・多文化共生ホームステイ
- ・奨学金

■facebook いいね!で支援

